

## 千葉 ライフ・ライン ニュースレター No.170

【発行】千葉県テレビ伝道協力会  
〒260-0021 千葉市中央区新宿2-8-2  
CCCビル 「千葉ライフ・ライン係」  
TEL 043-247-3058 FAX 043-247-3072  
E-mail: [info@chiba.life-line.tv](mailto:info@chiba.life-line.tv)  
ホームページ <http://chiba.life-line.tv/>  
郵便振替：00110-8-579669

【協力】財団法人 太平洋放送協会 (PBA)  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台  
2-1 OCCビル  
TEL 03-3295-4921 FAX 03-3233-2650  
E-mail: [mail@pba-net.com](mailto:mail@pba-net.com)  
ホームページ <http://www.pba-net.com>  
でんわ世の光 03-3291-9061

### 『音』を『声』に

日本ナザレン教団昭和町教会牧師 杉谷乃百合

私の記憶違いでなければ、かつて短波放送で「ナザレンアワー」という番組があったと思います。父が小さなナザレン教会の牧師でしたので、順番がまわってくるとスタジオにメッセージを録音に行くのですが、よく一緒に連れていってもらいました。マイクにむかうとなぜか一本調子の語りになる父のメッセージは、電波にのってどのように人々に伝わるのだろうか？ほんとうに聞いておられる人はいるのだろうか？顔と顔を合わせずに大切なメッセージは伝わるものだろうか？などと、子どもながらに考えた事を覚えています。

大切な事（メッセージ）を話し言葉で伝えるとき、「音」が「声」となる必要があります。声を出して語りかけていても、相手がそれを「声」として認識しないと、意味を成さないただの「音」です。楽器の演奏は「音」ですが、弾き手はその「音」を調和して演奏し、聞き手がその調和した「音」を解釈して受け止めれば、メッセージ性が深くある音楽として感動することもあるでしょうし、「つまらない音楽だ」と批判になるかもしれません。

「音」が「声」となるためには、メッセージの「発信者」と「受取手」の関係が大切です。「発信者」と「受取手」の距離は近ければ近い程、メッセージは伝わりやすくなります。それは、コミュニケーションは、距離が近いほど伝わる可能性が高まるからです。「発信者」と「受取手」の距離が近い仕事をしている筆者は、距離の遠いところにメッセージを発するマスコミュニケーションに関して無関心でした。しかし、アメリカのオレゴン州の東部に住んでいる友人のおばあさんから、マスコミュニケーションの役割の大切さを教えられました。そのおばあさんは、一番近いおとなりが20キロ先という、砂漠の真ん中でドライブインをされていました。熱心なクリスチャンでしたが、実際に教会に行き礼拝をするのは年に数回しか機会がありませんでした。おばあさんは言われました、「私の毎日曜日の礼拝は、テレビ礼拝よ。遠く離れた所で同じ神様を信じる人たちとテレビ礼拝で心をあわせることは可能よ。聖霊に導いていただくの。」私たち一人一人の担う役割が違うように、コミュニケーション手段にも違った役割があることを知りました。

メディアを通して伝える大切なメッセージが、沢山の方の思い、祈り、サポート、主の導きによって「声」となって、これからも益々必要な方々に届くことを心から願います。

お茶の間に福音！

チバテレビ土曜あさ7時、心をいやす30分「ライフ・ライン」

ご家族でお楽しみ下さい。